

(1ページから続く)

MSFでの役割は、医薬品アクセスを担当する「必須医薬品キャンペーン」のプロジェクト。ただ当時、医薬品アクセスといっても、日本で知っている人は皆無。「最初は理解できなくて、プロジェクトの活動も欧州が中心だった。日本で1人だけ医薬品アクセス問題の担当になって何をしたいかわからず、すぐに辞めようと思っていた」

そんな中、MSFで働く3人の中心的な医師に出会った。1人がバンコクのスラムでエイズ患者の治療をしていた医師。「バンコクのエイズ患者は薬が手に入らないから使えない」と聞かされた。バンコクでエイズの乳児患者を支援するボランティアをしていた平林さんだが、まさか薬が使われていないとは知らなかった。「治療薬がない状態だと初めて気がついた。医薬品アクセスを何とかしなければいけないと分かった」

もう1人が、現在のDNDi最高責任者のベルナル・ベクール医師。2000年に九州・沖縄サミットで来日した時、実際の医薬品アクセス問題がどういことなのか教えてもらった。その後、年2回開かれる必須医薬品キャンペーンのグローバル会議がパリで開かれ、平林さんも参加した。ところが、「3日間の会議期間中、状況が分からず議論に全くついて行けなかった。もうダメだと思った」。また打ちのめされた。

落ち込んでいたとき、偶然、MSFフランスの会長だったジャン・エルヴェ・ブラドル医師と面談予定になっていた。その場で、アフリカに蔓延している眠り病の研究開発がほとんど行われていないこと、医薬品アクセスがないことがどういうことなのか、熱い思いを聞いた。

眠り病の治療薬は、古い薬で毒性が高く、耐性が強いものしかなかった。それでも研究開発が進まなければ、毒性が高くて古い薬を患者に使うしかない。だからこそ研究開発が必要だ——。ブラドル医師の言葉に、必要な医薬品の開発努力がされていて、医薬品が使われていると信じていた平林さんは衝撃を受けた。途上国では、目の前に医薬品があっても使われていない。研究開発も行われていない。そのことをMSFの3人の医師から気づかされた。医薬品アクセスに本気で取り組もうと決意した。

その後、平林さんは必須医薬品キャンペーンに取り組みつつ、顧みられない熱帯病の研究開発にも関わった。しかし、当時の日本では関心は低く、できることは限られた。エイズ薬を開発している日本の製薬企業もなく、ほとんどは遠いアフリカの途上国の話に過ぎなかった。

既に、顧みられない熱帯病のグローバルな研究開発ネットワークを構築しようとDNDiの設立準備

国際保健分野の最前線で活躍



09年、ケニアでの内臓リーシユミア症臨床プロジェクトのモバイルチーム活動にて



が進められていた。平林さんは、旧ファルマシア日本法人の研究開発トップを務めたドイツ人医師、クリス・ブリュンガーさんと日本でもDNDiの活動が必要と考え、水面下で立ち上げを模索していた。

そんなとき、ウガンダでのエイズ治療プロジェクトがスタートし、現地で薬剤師の募集があった。当時のMSFでは、薬剤師が現地の医療活動の一員としてフィールドに派遣されることは少なかった。「キャンペーンをやっている、実際にアフリカのエイズ治療がどうなっているのか分からない。自分が現地入りして一緒に活動したいと思った」。そう思ったら行動に移すしかない。わずか3日で参加を決断し、2週間後にはウガンダに出発していた。実は、日本で一緒にDNDiの立ち上げを模索していたデュルンガーさんに相談もせず、飛び出してしまった平林さん。その後、ウガンダで7カ月にわたってフィールド活動を経験した。

そして2004年、北里研究所や東京大学とのプロジェクトを支援するため、DNDiの活動を日本でスタートさせた。当時はオフィスもなく、デュルンガーさんとの会議はもっぱら「スターボックス」が定番。そんな黎明期を経て、09年には、日本の製

薬企業として初めてエーザイとシャーガス病の新薬開発で契約を結び、12年にはアステラス製薬と共同研究契約を結んだ。翌13年には、顧みられない熱帯病の新薬開発を支援する日本初の官民パートナーシップ「グローバルヘルス技術振興基金」(GHITファンド)が発足。いまでは、日本での顧みられない熱帯病への関心は高まりを見せ、かつてない追い風が吹いてきた。ここまで10年以上の月日を費やした。

まだ国際保健分野で日本人の薬剤師が活動することが珍しかった当時。好奇心あふれる平林さんは、まさにフロントランナーとして、時代を切り開いてきた。薬学生には「昔に比べて進路の選択肢はたくさんあると思うが、どれを選択しても、どの道を選んでも失敗の道というものはないと思う」とエールを送る。

そんな世界を相手に活動してきた平林さんのオフタイムは？

「よく考えると、仕事ばかりだったかもしれない。それじゃいけないですよ」と笑う。オフではまっているのが水泳。自宅近くのプールで泳ぐのがリラックスタイムになっている。近所の公園を散歩したり、温泉に行ったり、チェロも弾いたりする。「下手だけど、何でも新しいことをやってみたい」

ずっと薬剤師として国際保健分野の最前線を走り続けてきた平林さんだが、「そろそろ引退して、のんびり乗馬でもやりたい」とらしくない言葉が……。ようやく日本でグローバルヘルスへの関心が高まってきたとはいえ、DNDiの活動も道半ば。引退するのは、まだまだ先になりそうだ。

薬学生のための求人情報サイト **プレOPEN中!** 先行登録受付

ファーマネット2017&2018

病院求人件数 **No.1** ナンバーワン!

全国の病院・薬局を**300件以上**掲載!

<http://www.pha-net.jp/>

ファーマネット **検索** **今すぐ登録!**

HUMAN NETWORK UNIV 株式会社ユニブUNIV CO.,Inc. <http://www.univ.co.jp>

大阪本社 〒530-0047 大阪市北区西天満 3-4-15 公冠ビル 2F TEL: 06-6361-3601
東京支社 〒1107-0052 東京都港区赤坂 3-2-2 日総第 24ビル 7F TEL: 03-5549-2420

名古屋支社 〒450-0003 名古屋市中村区名駅南 1-23-14 ISE 名古屋ビル 7F TEL: 052-533-0361
九州支社 〒810-0001 福岡市中央区天神 4-6-7 天神クリスタルビル 14F TEL: 092-721-1027